

1. 技術体系の特徴

経営類型	家族労働力	品目・栽培型及び規模		経営・技術の特徴	
施設野菜專業經營 II	人 3	トマト促成	a 40	1. 接ぎ木セル苗購入による2次育苗 2. UVカットフィルム・防虫ネット使用 3. 交配はマルハナバチ利用 4. 共同選果施設利用 5. 炭酸ガス局所施用 6. 統合環境制御	
		経営耕地面積	水田 畑		
経営目標	1 農業総収入	33,648 千円	4 1日当たり農業所得	13,748 円	
	2 農業経営費	27,269 千円	5 1人当たり年間労働時間	1,237 時間	
	3 農業所得	6,379 千円			

2. 資本装備と減価償却費

	種類・規模	数量	型式・構造・能力	所 有 割 合	取得価格 千円	耐 年 数	年 間 償 却 額 千円
建物・施設	ビニールハウス(新設) (ハウス本体工事、二重カーテン、換気扇、灌水チューブ、電気工事込み)	2	長崎県型低コスト耐候性(50m):4000㎡	1	46,299	14	1,654
	育苗用ビニールハウス (ハウス本体工事、妻換気、側換気(手動)、灌水チューブ込み)	1	AP単棟ハウス:1000㎡	1	4,499	8	281
	重油タンク	2	1.9kL	1	365	7	26
	防油堤	2		1	437	25	17
	農機具倉庫	1	軽量鉄骨 20㎡	1	1,080	24	45
	作業及び収納舎	1	軽量鉄骨 60㎡	1	3,240	24	135
	計					55,920	
農機具	トラクター	1	20PS、140cm幅ロータリー装着	1	1,817	7	130
	管理機	1	6.2PS	1	200	7	14
	動力噴霧機	1	可搬式(5MPa)	1	213	7	15
	トラック	1	軽トラック	1	917	4	115
	加温機	2	600坪用(150,000kcl/h)	1	2,642	7	189
	循環扇	4	1セット/10a	1	704	7	50
	多段式サーモ	2	加温機取り付け	1	185	7	13
	炭酸ガス発生装置	2	1600~1800㎡用	1	807	7	58
	自動換気装置	4	1000㎡用	1	3,410	7	244
	自動カーテン資材(2層)	4	LSスクリーン2層張り、自動制御	1	11,296	7	807
	細霧システム	2	自動制御	1	2,676	7	191
	統合環境制御装置 局所施用装置	2	モニタリング装置込み ダクトファン	1	3,524 1,400	7	252 100
計					29,791		2,177

3. 技術体系(トマト促成)

(10a当たり人、時間)

作業の種類	栽培技術		作業体系				使用資材	技術の重要事項
	技術内容	作業時期	使用機械器具	組み作業人員	実作業時間	延べ作業時間		
(2次育苗) 育苗準備	鉢上げ準備	8月	トラック	2	4	8	育苗用ハウス 育苗ポット 育苗床土 コンテナ	育苗ハウスは防虫対策をとる。
鉢上げ		8月下～ 9月上	トラック	2	5	10	接ぎ木セル苗 2,500本	
管理	かん水 ずらし	8月下～ 10月上		1	3	3		かん水は午前中に行う。 茎葉が重なり合わないようずらしを行う。
病虫害防除	薬剤散布		動力噴霧器	1	1	1	殺虫剤 殺菌剤	県病虫害防除基準に基づく適正防除。 黄化葉巻病株は処分する。
(本ぼ) 耕うん整地		9月上旬	トラクター	2	2	4	堆肥 2t	完熟堆肥を施用し、深耕する。
病虫害防除	土壌消毒 ガス抜き	9月中～ 9月下旬	トラクター	2	3	6	土壌消毒剤 古ビニール	県病虫害防除基準に基づく適正処理。
施肥	基肥施用 耕耘	9月	トラクター	2	2	4	石灰質資材 120kg 磷酸質資材 40kg	施肥量は土壌分析を参考に する。 Nの分施肥割合 基肥 50:追肥 50 第1回目は第3花房開花時 に行う。 以降は、草勢に応じて液肥 で施用。
	追肥	11月～4月		1	28	28	10a当たり成分 N 30kg P ₂ O ₅ 20kg K ₂ O 25kg	
ビニル被覆	外ビニール 張り 二重カー テン準備 防虫ネット 設置	9月下～ 10月上	トラック	3	16	48	ビニルー式 防虫ネット	
定植準備	うね立て	9月下～ 10月上	管理機	2	3	6		うね幅 1.8m
マルチ		9月下～ 10月上		3	2	6	ポリマルチ	マルチは、低温期になるまで 畦の肩部まで上げておく。
定植		10月上～中		2	10	20		株間45cm(2条) 10a当り 2,400株 第1段花房の1～2花開花した 頃。
支柱立て		10月上～中		3	8	24	支柱 エスター線 誘引ひも	横張りは、8～10段

作業の種類	栽培技術		作業体系				使用資材	技術の重要事項
	技術内容	作業時期	使用機械器具	組み作業人員	実作業時間	延べ作業時間		
管理	誘引	10月中～5月		3	45	135	誘引ひも 誘引クリップ	2段までは直立に誘引し、その後は斜めに誘引する。
	腋芽かぎ 摘果 摘葉	10月中～5月		3	45	135	ハサミ	腋芽は早めに除去する。
ホルモン処理 マルハナバチ 交配	着果促進	10月中～4月下		2	19	38	ホルモン処理剤 マルハナバチ	マルハナバチ利用による交配。 下段花房(1～3段)、厳寒期はホルモン処理を行う。
統合環境制御		10月～5月	加温機 多段式サーモ 循環扇 自動換気装置 炭酸ガス発生装置 局所施用装置 統合環境制御装置	1	24	24	A重油12000L 灯油1500L	厳寒期の保温対策の実施 最低温度 12℃以上確保 昼間温度 25～28℃ 炭酸ガス:ゼロ濃度差施用 自動換気装置、炭酸ガス、2重カーテンは自動制御
かん水		10月中～5月		1	28	28		着果後から徐々に量を多くする。 草勢に応じて少量多回数のかん水を行う。
病虫害防除	薬剤散布 耕種的防除	10月中～5月	動力噴霧機	2	36	72		県病虫害防除基準による適正防除。 マルハナバチへの影響を考慮する。
収穫		12月～6月	トラック	3	106	318	ハサミ コンテナ 収穫台車	
出荷		12月～6月	トラック	1	26	26	コンテナ	共同選果施設の利用
後かたづけ	ほ場環境浄化	6月	トラック	2	10	20		収穫終了後にハウスの蒸し込みを行う。
計						964		

4. 品目の作付体系(▼鉢上げ、○ハウス被覆、、△定植、□収穫)

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
トマト促成									□	△		

5. 作業別・旬別労働時間(10a当たり時間)

1) トマト促成栽培

品目・作業/月・旬	1		2		3		4		5		6		7		8		9		10		11		12		計	
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下		
育苗作業(2次育苗)																									22	
定植準備																										12
定植																										20
かん水	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	28
マルチ張り																										8
ビニール被覆																										48
支柱立て																										24
栽培管理作業	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	10														24
交配	5	5	5	5	5																					38
追肥	1	1	1	1	1	2	2	2	2																	28
温度管理	1	1	1	1	1	2	2	1	1	1	1															24
病虫害防除	2	2	3	3	3	3	3	3	3	3	3															78
収穫出荷	8	12	18	18	24	24	24	24	24	24	18	12														344
後かたづけ																										20
計	30	34	34	41	41	44	44	44	43	43	43	41	41	41	32	13	1	0	0	0	0	0	0	0	0	964
月計	98			123			129			123		46			27			80		78		65		63		

6. 総労働時間

	1		2		3		4		5		6		7		8		9		10		11		12		計							
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下								
総労働時間	120	136	136	164	164	176	172	172	172	164	164	164	128	52	4	0	40	48	20	36	132	152	104	80	128	100	92	68	68	92	92	3856
うち家族労働	120	136	136	154	154	156	157	157	157	149	149	149	128	52	4	0	40	48	20	36	132	152	104	80	128	100	92	68	68	92	3676	
うち雇用労働				10	10	20	20	15	15	15	15	15	15																			180